

## 産総研九州センター 一般公開 「きて！未来の技術がいっぱい」

お知らせ

9月27日(土) 9時30分～16時30分(最終受付:15時30分)

お問い合わせ:九州産学官連携センター TEL:0942-81-3606 <http://unit.aist.go.jp/kyushu/>

### 今日は研究者だ「やってみよう！」

#### ●サイエンス実験ショー

化学の不思議

#### ●おもしろ体験コーナー

アザラシ型ロボット「パロ」と遊ぼう  
くらしとJISのかかわり  
「はんこ名人」でオリジナルはんこをつくろう  
コンピュータが英語の発音を指導  
赤外線で音が聞こえる!?

ジャイロ効果を体験  
「光る」有機ナノチューブ  
人間の動きを自然につなげる  
熱を無駄なく電気に変える

#### ●移動地質標本館

地質図って何?  
ペーパークラフト「飛び出す火山」を作ろう!  
砂で学ぼう・砂で遊ぼう!

#### ●公開テーマ

1. 計算できるマイクロ流体
2. すごいマグネシウムがやってきた!
3. 色いろいろ
4. 光を吸ってスライムが七変化
5. 石油に代わるバイオマス
6. ひび割れ模様のビー玉を作ってみよう
7. あなたの指先できらめく光を見て下さい!

#### ●親子サイエンス何でも相談室

※ここに紹介するものは予定内容です。日程や内容等は変更される場合があります。

## 「ASEAN 科学技術週間」に出展

報告

7月7～11日、第8回「ASEAN 科学技術週間」がフィリピン・マニラにおいて開催されました。この催しはASEAN(東南アジア諸国連合)諸国の科学技術振興、特に青少年への科学技術の普及・教育を目的にASEAN各国の持ちまわりで3年ごとに開催され、地元フィリピンの政府、企業、大学などをはじめ、ASEAN諸国および日本、中国、韓国、インド、EUなどの機関が出展しました。

産総研は、ポスター展示8件(産総

研概要、太陽電池、カーボンナノチューブ、再生医療、メンタルコミットロボット・パロ、バイオ燃料、バイオマスアジア、ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)事業)、パロのデモなどを行いました。初日の開会式にはホスト国フィリピンのアロヨ大統領ならびにASEAN諸国の科学技術関係VIPが出席、式の後は、タイのウティポン科技大臣などVIPが産総研ブースを訪れました。会期を通じて、地元の学校(中学・高校・大学)の団体を中心

に多数の来訪者が次々と訪れ、産総研ブースはパロ効果が絶大で、集客力抜群、特に女子学生に人気を博すなど、産総研のプレゼンスを大いに高めることができました。



パロが人気の産総研ブース

## 「産総研イノベーションスクール」開講式

報告

産総研は産業技術に係る研究開発・技術開発に携わる人材の輩出を目指して産総研イノベーションスクールを開講しました。当スクールはイノベーション人材を育成するためのものです。産総研内のポスドクを対象にして、科学的・技術的な知見を有するのはもちろん、企業の体験を通じてより広い視野をもち、異なる分野の専門家と協力するコミュニケーション能力や協調性を有する人材になってもらい、企業などで即戦力として活躍できる人材の輩出を目指します。7月31日にイノベーションスクールの開講式が産総研で行われました。吉川理事長および小野副理事長(スクール長)の挨拶に続き、経済産業省 福田産総研室長、協和メデックス株式会社 森研究所長から来賓のご挨拶をいただきました。

＜吉川理事長＞大量性から持続性へ産業が移ってきました。基礎的な科学を学んだ人が、新しい知恵を絞って単に効率を上げるのではなく、今までにない産業をつくりだしていく時代がきました。

産総研は、基礎的な研究を通じて社会の価値に変換する仕組み(本格研究)を今、実践しています。受講生には、研究能力はもちろんですが企業でどう活かされるかなど、幅広く理解していただきたいと思っています。

＜小野スクール長＞スクールのポイントは、①産総研の中のOJT、②広い本格研究の理解、③企業でのOJTが挙げられます。この3つの間でのコミュニケーションをとれる人は少ないと思います。大学の仕組みや手法は十分会得していると思うし、産総研にあって公的機関の役割は理解していると思います。企業の手法を実際に体験してもらうことが大事です。

＜福田産総研室長＞日本は資源が不安定であり深刻な課題が出てきています。中長期的にみても、人口の減少、少子高齢化が進んでいます。また、環境やエネルギーの制約も高まっています。この制約、課題の中でわが国が元気で持続的な成長を遂げなくてはなりま

せん。そのためのキーがイノベーションの創出です。これを加速することは経済産業省の喫緊の課題です。また、わが国の成長力を支える人材育成が重要課題だと認識しています。こういう意味でこのスクールは経済産業政策にとっても非常に意義があり、時宜を得た試みです。

＜協和メデックス株式会社 森研究所長＞弊社の経営理念は、良い製品を出し社会に貢献することであり、研究所の目標は、お客さまに喜ばれる製品を出すことです。ただ製品を出すだけではなく、喜ばれるものでなければなりません。性能、ユーザー側の使いやすさ、製品の安定供給、コストなどを考慮しながら業務を進めています。産総研の受講生には、こういった環境の中で実習をしていただきます。



開講式





チャレンジコーナーでは、ソリトンの体験、噴火実験、魔法のインク、寝そべり自転車、はんこ作りなど、楽しみながら科学を体験していただきました。



茂木健一郎氏



小川勇二郎氏



石田直理雄氏

特別講演、科学教養講座はどここ大盛況。講師の先生方、たいへん興味深いお話をありがとうございました。



天気にも恵まれ、大勢の方が産総研つくばセンターにご来場くださいました。今年も大好評！ ヒューマノイド・ロボット。



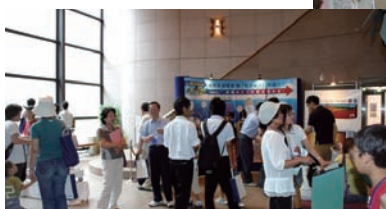
サイエンスコーナーでは、バイオエタノール、触媒、人工心臓、未来のネットワーク、粘土など、産総研で取り組んでいる技術を紹介しました。

## 産総研

「きて！ 未来の技術がいっぱい」を統一テーマに、今年も全国各地の産総研で「一般公開」を開催しています。関西センター尼崎事業所（7月25日）、つくばセンター（7月26日）、北海道センター（8月2日）では講演や体験コーナー、展示コーナーな



サイエンス実験ショーでは、科学の不思議・色の不思議を体験。施設見学ツアーでは、音の体験など普段見ることのできない場所を見学。工作コーナーでは、紫外線があたると色が変わるビーズでストラップを作りました。



地球の記憶を掘り起こせ！（地質標本館）、高齢者体験・車いす体験と標準化（くらしとJISのかかり）の特別展示はいずれも好評を博しました。



職員の文化活動を紹介。古楽リコーダー、コーラス、ジャズ、生け花、山の写真展など。日頃の練習の成果を披露しました。





猛暑にもかかわらず、朝早くから家族連れ、お友達どうしなどで、多くの方が関西センターへ足を運んでくださいました。オリジナルうちわを使ったスタンプラリーもたいへん好評でした。



生活に密着したものから最先端の技術まで、さまざまな成果物を紹介しました。実験教室では、科学の不思議さや楽しさを実際に体験していただきました。



特別講演では、高校生以上を対象に、再生医療の最先端を紹介しました。たくさんの方が最先端医療技術に関心をお持ちでした。科学教室では、身の回りのものを使った簡単な実験で、無重力や液化現象を体験していただきました。



LEGOを用いたプログラム体験では、パソコンを使ってプログラミングに挑戦していただきました。ライトレースと簡易プログラムで、実際にLEGOを動かして楽しんでいただきました。

## 一般公開

どを通して、お子さんから、学生、一般の方まで、みなさんに産総研の最新の研究成果や科学の基礎に触れていただく機会を提供することができました。これから開催される地域センターの一般公開へのご来場もお待ちしています。

毎回大人気のスライム、はんこ名人、パロ。今年初登場のチョコレート、万華鏡もたいへん好評でした。



近江谷 克裕氏

特別講演「光る生き物」では、子どもも大人も「ウミホタルってすごい！」。



わくわくサイエンスショーでは、じゃがいもで水あめを作ったり、ピンホールカメラや日光写真をためていただきました。



終日雨が降る中、大勢の来場者の皆さんと楽しい時間をともにすることができました。産総研を知っていただく機会になれば幸いです。ご来場ありがとうございました。



地盤による地震のゆれ方の違いや液化化、鳴り砂、デモスチルスの化石なども紹介しました。エネルギーとバイオの2コース用意したラボツアーにも、大勢の方に参加していただきました。「燃える氷」にびっくり。





## 産総研シンポジウム「幹細胞の産業化に向けて～世界の動向と産総研の取組み～」

報告

7月25日(金)、産総研臨海副都心センター隣接の国際交流会議場において、標記のシンポジウムが、400名の満席状態で開催されました。ES細胞、iPS細胞、間葉系幹細胞などの幹細胞は、創薬支援・再生医療の資源として注目されていますが、その実用化・産業化には克服すべき課題が多くあります。今回のシンポジウムでは、特別講演として桜田一洋氏(元バイエル薬品神戸リサーチセンター長)にiPS細胞

を巡る最新の動向を産業利用の視点からお話していただき、続いて産総研の6名の講師が幹細胞の作製・分化誘導、細胞操作技術の研究成果を紹介し、最後にパネルディスカッションにより、幹細胞の産業化に向かっの展望と課題がさまざまな角度から議論されました。会議冒頭には、お忙しい中、西本淳哉 経済産業省大臣官房審議官(産業技術担当)もご挨拶に駆けつけてくださいました。猛暑の中でしたが、北海

道から沖縄まで、多くの参加者を得て、今回のテーマへの関心の高さが再認識されました。



パネルディスカッション

## 新役員紹介

お知らせ

まなべ たかし  
眞鍋 隆 (理事)

就任年月日：2008年7月28日

### 略歴

1980年3月 東京大学法学部第2類卒業  
1980年4月 通商産業省入省  
1994年4月 通商産業省産業政策局流通産業課商業集積推進室長  
1995年6月 運輸省自動車交通局企画課道路交通活性化対策室長  
1997年9月 通商産業省生活産業局住宅窯業建材課窯業室長  
1999年11月 通商産業省基礎産業局総務課化学政策企画室長  
2001年1月 経済産業省中小企業庁経営支援部参事官  
2002年7月 経済産業省製造産業局アルコール課長  
2003年7月 経済産業省製造産業局化学課長  
2005年9月 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構総務部長  
2006年7月 日本小型自動車振興会理事  
2008年4月 経済産業省経済産業研修所長  
2008年7月 独立行政法人産業技術総合研究所理事



## EVENT Calender

イベントの詳細と最新情報は、産総研のウェブサイト(イベント・講演会情報)に掲載しています  
<http://www.aist.go.jp/>

2008年9月 → 2008年11月

8月10日現在

期間	件名	開催地	問い合わせ先
<b>9 September</b>			
3日～5日	2008分析展	千葉	029-862-6147 ●
5日	産総研サイエンスカフェ「プラスチックの革命 石油から植物へ」	つくば	029-862-6211 ●
11日	産総研「安全科学研究部門」設立記念講演会	東京	029-861-8868 ●
12日	「今沸騰する新しいものづくりと人づくり」経済産業省委託事業ワークショップ	東京	029-861-7849 ●
16日～19日	イノベーション・ジャパン2008-大学見本市	東京	03-5298-4715 ●
27日	産総研一般公開(九州センター)	鳥栖	0942-81-3606 ●
<b>10 October</b>			
1日～3日	2008産学官技術交流フェア	東京	03-5644-7221
1日～5日	国際航空宇宙展	横浜	JA2008@sjac.or.jp
3日	国際航空宇宙展ワークショップ「宇宙から地球を観る:真に役立つ地球観測をめざして」	横浜	029-861-3902 ●
3日	しんきんビジネスフェア 北陸ビジネス街道2008	金沢	076-261-2836
20日～21日	産総研オープンラボ	つくば	03-5369-2588 ●
24日～25日	産総研一般公開(中国センター)	広島	0823-72-1944 ●
<b>11 November</b>			
19日～21日	組込み総合技術展 Embedded Technology 2008	横浜	03-3219-3563

●は、産総研内の事務局です。

# 初めての、 「産総研オープンラボ」開催。

ふだんご覧いただけない研究室を特別公開します。  
産業技術研究の最前線で、ニーズとシーズのマッチングを図るまたとないチャンス。  
ぜひこの機会に、次のヒントを見つけませんか？



9月16日(火)より  
**登録開始!**

事前登録制

参加費  
無料

※ご参加いただくには、事前の登録が必要です。登録方法、プログラムなど詳しくは下記のホームページをご覧ください。

- 研究者自らがデモンストレーションにより、装置・設備の紹介を含めながら研究成果の内容をご説明し、議論の場を設けます。
- 産総研の理念や目指す方向性をご紹介するための、総合的な展示を行います。
- 産総研の産学官連携の仕組みや知的財産の取り扱い、研究環境等についてご説明いたします。
- 個別の具体的な連携のご相談や、ご質問にお応えします。
- 地域センターの研究成果パネル展示を行い、ご興味のある皆様には、その後の連絡先等をご案内いたします。

<http://www.aist-openlab.jp/>

見る、聴く、話す。  
求める技術と出会う2日間!

# 産総研 オープンラボ

2008.10.20(月)~21(火)

◎会場：産業技術総合研究所つくばセンター



独立行政法人  
産業技術総合研究所

「産総研オープンラボ」イベント事務局：03-5369-2588 E-mail: openlab\_info@m.aist.go.jp